

慢性膵炎とは

- ① 慢性的な膵実質の炎症により、徐々に膵の外分泌、内分泌機能が低下する疾患である。
- ② 血清の膵酵素（アミラーゼ、リパーゼ、トリプシン）は上昇ないし低下していることが多いが、正常範囲内であることもある。
- ③ 慢性膵炎での経過中に急性再燃を来すことがあり急性膵炎様の強い腹痛で救急病院を受診することも多い。その場合は膵酵素上昇や画像での膵腫大、膵周囲の脂肪織濃度上昇といった急性膵炎に特異的な所見がみられるので、膵炎の存在診断は困難ではない。しかし、急性膵炎か慢性膵炎の急性増悪かの鑑別は困難なことも多く、経過の中で判断していく。
- ④ 問題は膵癌の合併ないし発症でありとくに炎症が続いている場合は、1回の造影CTで異常がなくとも、数か月をあけたのちに画像検査等を再検すべきである。
- ⑤ 膵癌発症の注意すべきリスクファクターは、膵癌の家族歴、IPMN、膵のう胞、慢性膵炎、40才以降での急性膵炎、糖尿病、肥満、アルコール依存、CA19-9の上昇等である。